

薬局における一般用医薬品の販売状況調査

仙南保健福祉事務所 三品哲也

1 調査の背景

- ◆ セルフメディケーションについて
- ◆ 一般用医薬品について
- ◆ 薬局における一般用医薬品の販売について

セルフメディケーションとは

自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること

例えば、

軽い風邪をひいたとき、薬局で**一般用医薬品**を購入して治療する。
健康管理のため、サプリメントを利用する。こと等

利 点

- ・自分自身の健康に対する意識向上
- ・医療機関を受診する手間、時間の省力化
- ・**医療費の削減**

問題点

- ・誤った知識や情報による症状の悪化
- ・医療機関を受診が遅れ、重病の発見が遅れる
- ・結果に対して自己責任を負う

適切な情報提供が重要になる

一般用医薬品とは

医薬品

一般用医薬品(市販薬, OTC)

- ・効能及び効果において人体に対する影響が著しくないもの
 - ・薬剤師等の専門家から提供された情報に基づき需要者(患者)の選択により使用されることが目的とされているもの
 - ・薬局, 店舗販売業(ドラッグストア)において陳列, 販売されている
- ⇒セルフメディケーション普及に大きな役割を担う

医療用医薬品

- ・医師・歯科医師の指示(処方せん)に基づき, 薬局・病院において調剤され, 患者へ情報提供・交付される
- ・店頭で販売されていない

一般用医薬品に係る薬事法の改正 (H21.6.1施行)

- ◆ **リスクに応じた分類**

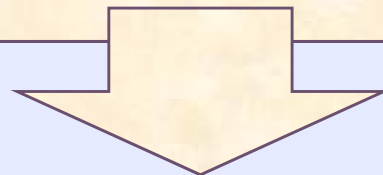
第1類から第3類までに一般用医薬品をリスク区分し、情報提供方法、リスク区分表示、陳列方法を規定

- ◆ **登録販売者制度の導入**

薬剤師以外に第2類及び第3類医薬品に係る相談応需・販売することができる資格者を創設

- ◆ **一般用医薬品販売制度の改正**

- ・医薬品販売業許可業種に店舗販売業許可を新設
- ・一般販売業許可、薬種商販売業許可を廃止



適切な情報提供・相談応需
セルフメディケーションの普及推進

一般用医薬品のリスク分類

リスク大



リスク小

| リスク分類 | 対応する専門家 | 情報提供 |
|--------|--------------------|---------------|
| 第1類医薬品 | 薬剤師 | 文書での情報提供を義務づけ |
| 第2類医薬品 | 薬剤師 又は 登録販売者 | 努力義務 |
| 第3類医薬品 | | 定めなし |

薬局と店舗販売業(ドラッグストア)の違い

薬 局

- 薬剤師が管理
- 医療用医薬品(処方せん医薬品)の調剤ができる
- すべての一般用医薬品販売が可能
⇒一般用医薬品を販売しているとは限らない。
- 県内約1100店舗

店舗販売業(薬店, ドラッグストア)

- 薬剤師または登録販売者が管理
- 医療用医薬品の取扱いは不可
- 薬剤師がいない店舗では, 第1類医薬品の販売ができない。
⇒第2・3類医薬品は基本的に必ず販売している。
- 県内約420店舗

薬局の一般用医薬品の販売状況について未把握！！

2 調査の目的

薬局の現状把握

一般用医薬品販売状況

一般用医薬品販売に係る問題点

セルフメディケーションに対する意識

薬局のセルフメディケーション支援機能の向上
(みやぎのかかりつけ薬局の実現へ)

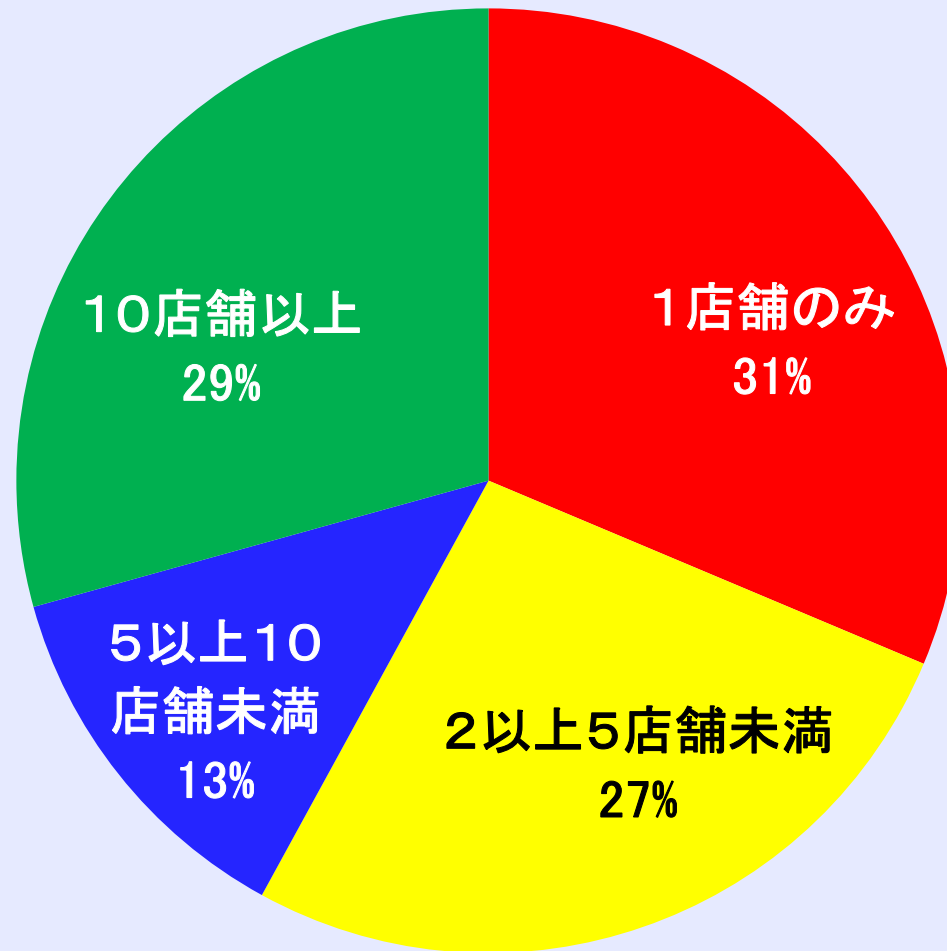
3 調査の概要

- ◆ 調査対象及び方法
アンケート形式による調査
県内全薬局 1100店舗の**管理薬剤師**に対して実施
(回答率 約85%(936店舗))
- ◆ 調査内容
 - ・**薬局の概要**
開設者の経営する薬局数, 職種別勤務者数, 薬局の売上
 - ・**一般用医薬品販売等状況**
取扱の有無, 取扱種類, 販売に係る問題の有無
 - ・**セルフメディケーションに係る意識**
必要性, 薬局の取組等
- ◆ 調査期間
平成22年9月から10月

4 調査結果

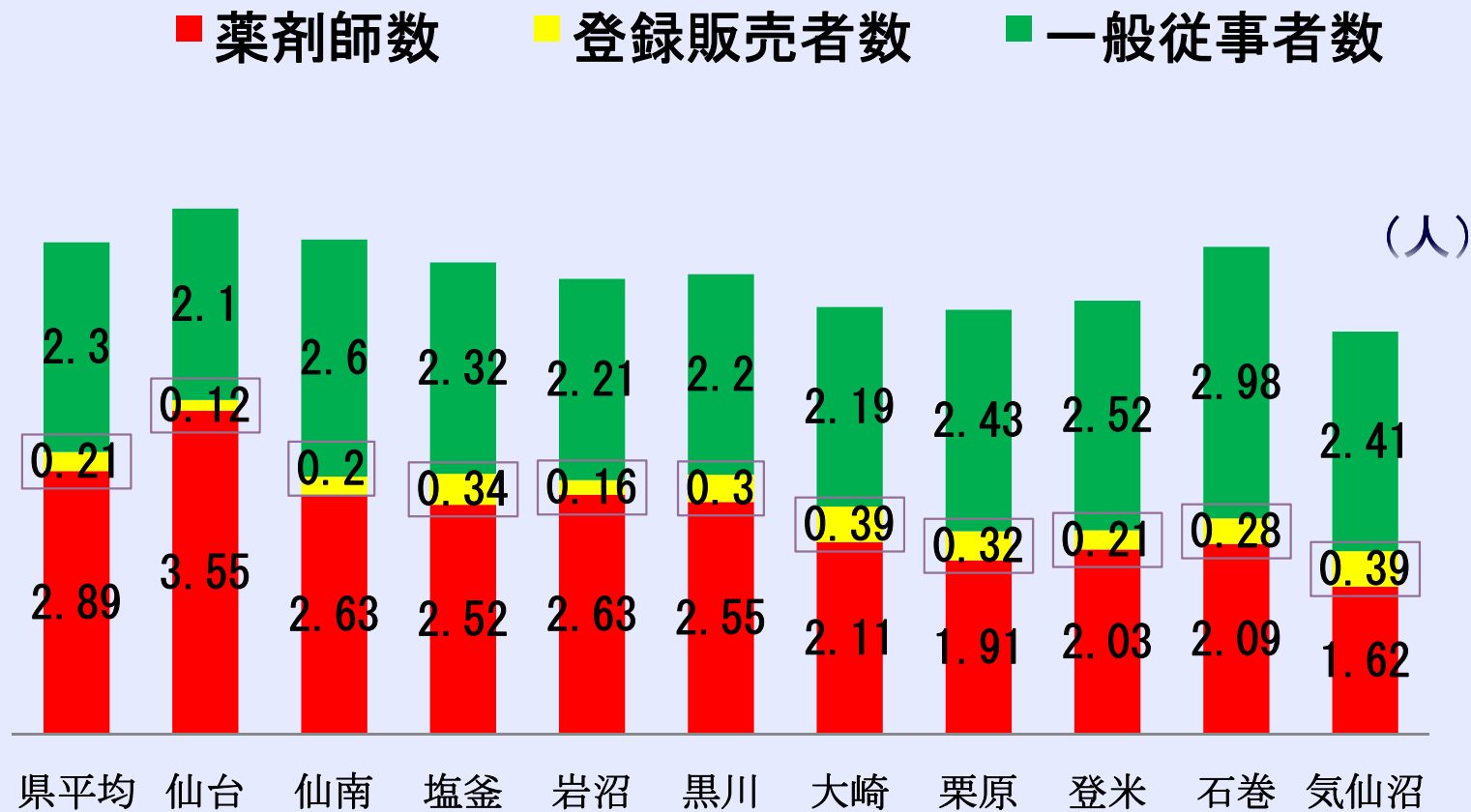
(1) 薬局の概要

● 開設者の経営する薬局数

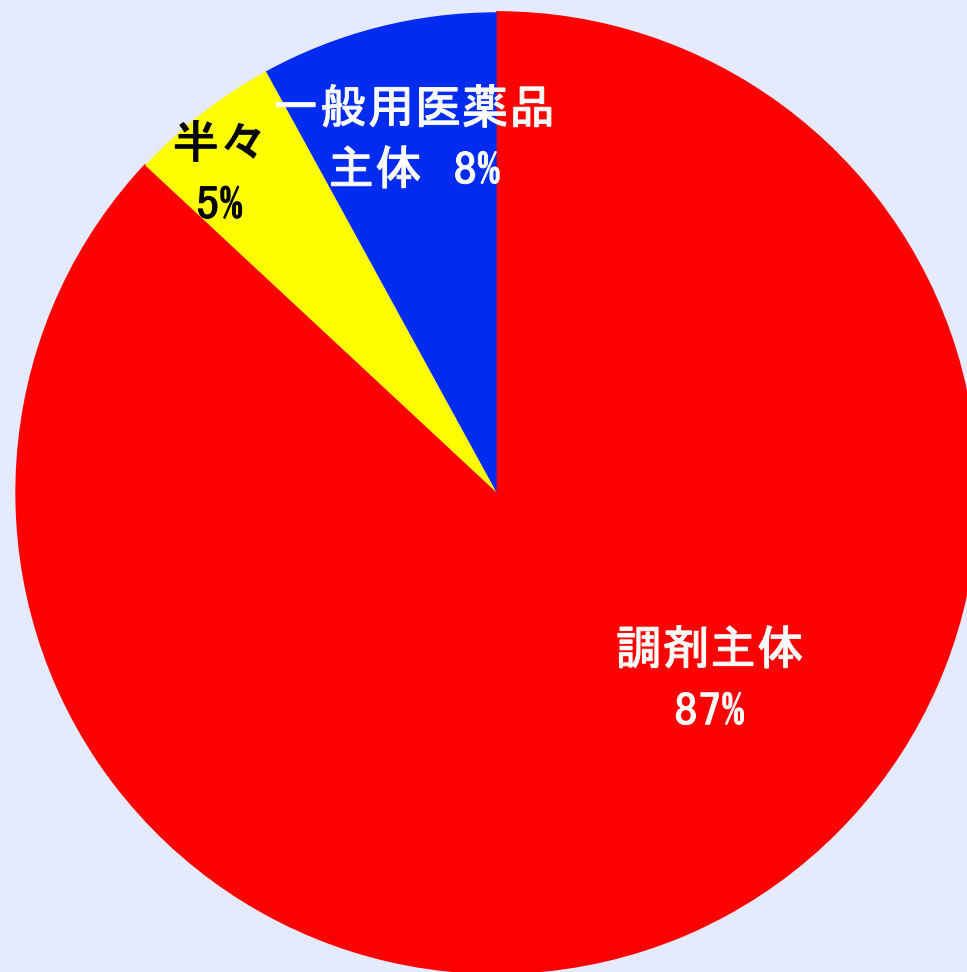


県全体割合

● 薬局に勤務するスタッフの内訳



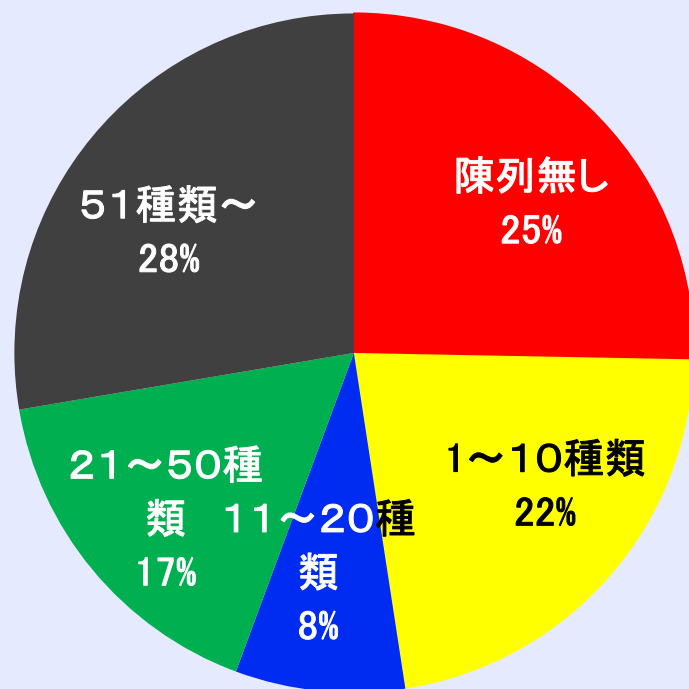
● 医薬品売上の内訳



県全体割合

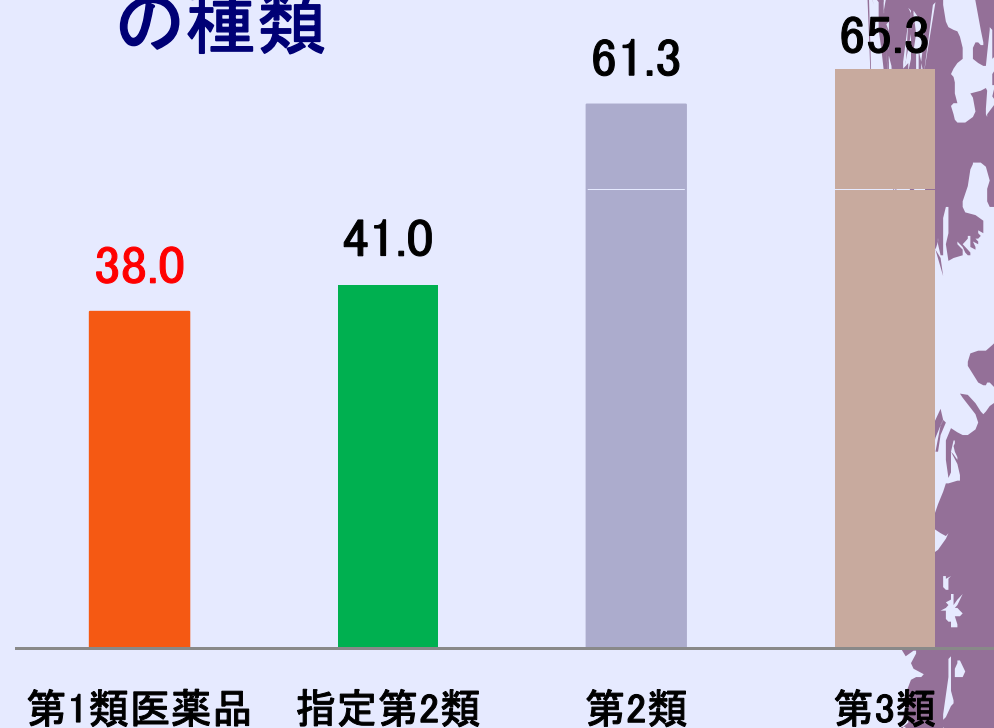
(2) 一般用医薬品販売等状況

● 一般用医薬品の陳列数



県全体割合

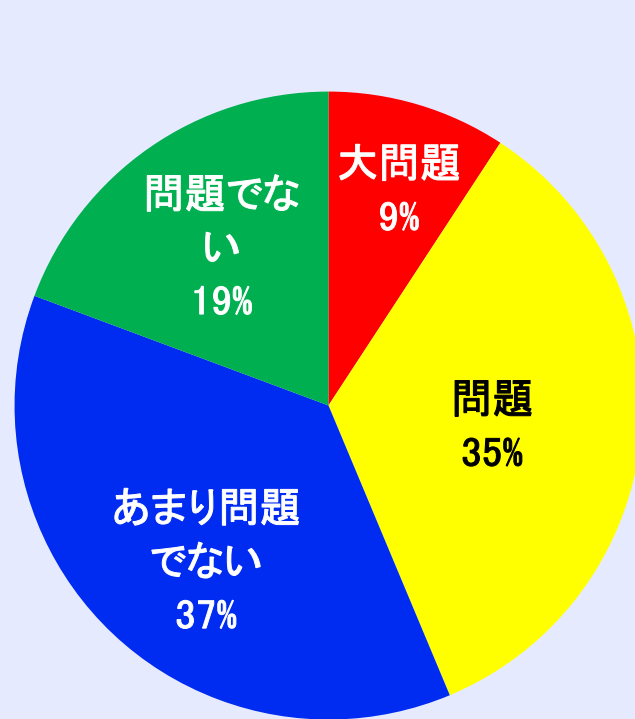
● 陳列している一般用医薬品の種類



県全体割合 (%)

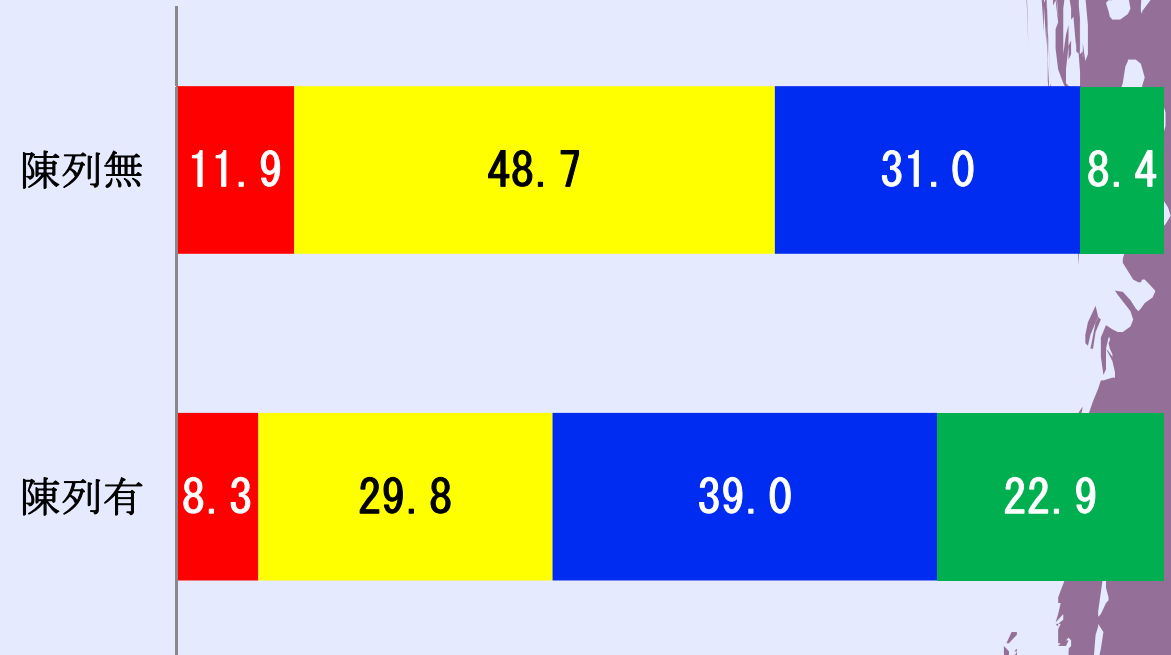
● 一般用医薬品の販売に係る問題点

▪ 販売に係る時間的な余裕がないこと



県全体割合 (%)

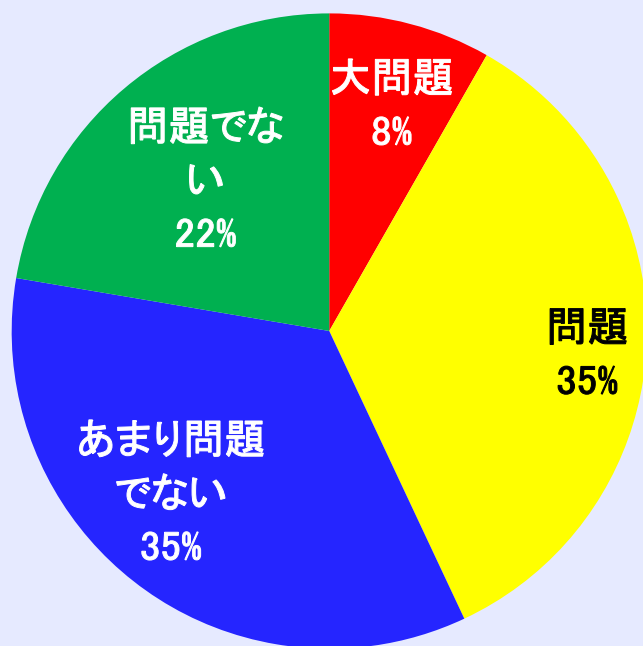
■ 大問題 ■ 問題 ■ あまり問題でない ■ 問題でない



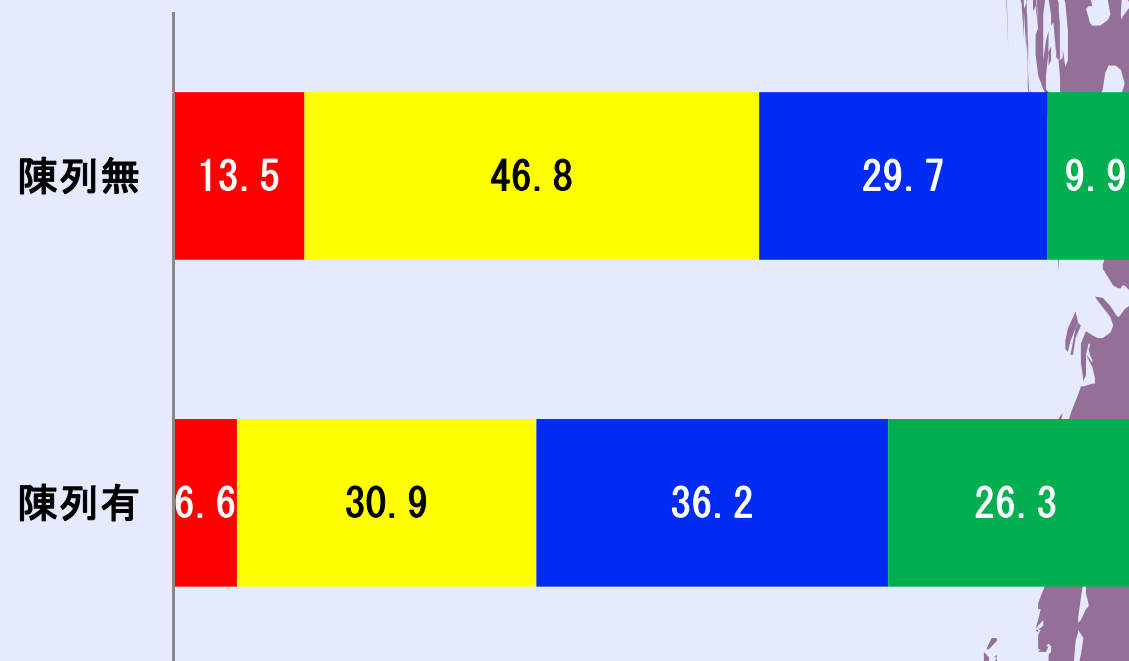
一般用医薬品陳列の有無別割合 (%)

- 販売に係る人員が不足していること

■ 大問題 ■ 問題 ■ あまり問題でない ■ 問題でない

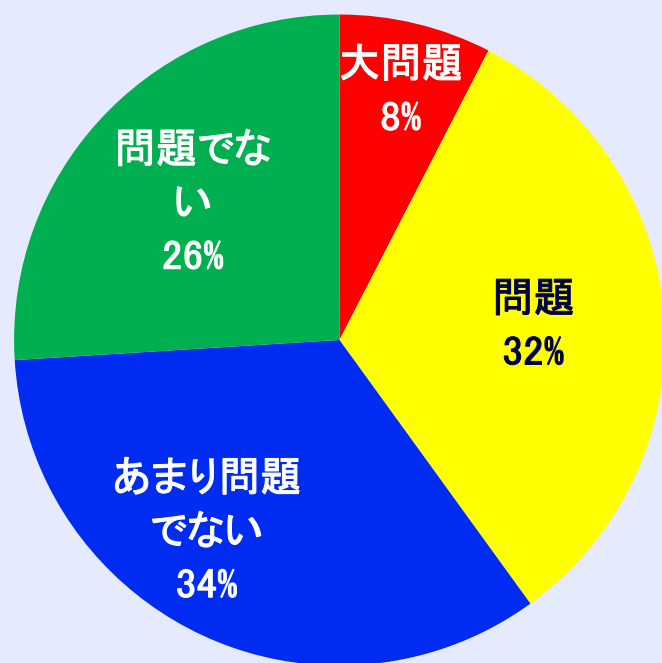


県全体割合 (%)



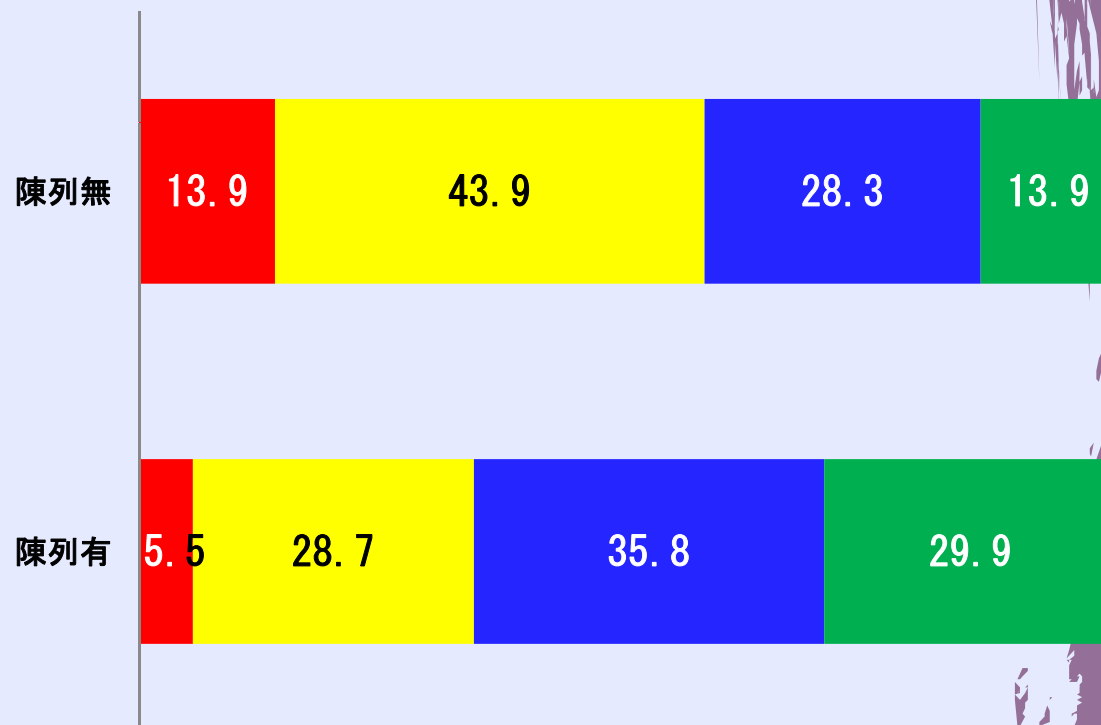
一般用医薬品陳列の有無別割合 (%)

・ 陳列スペースが不足していること



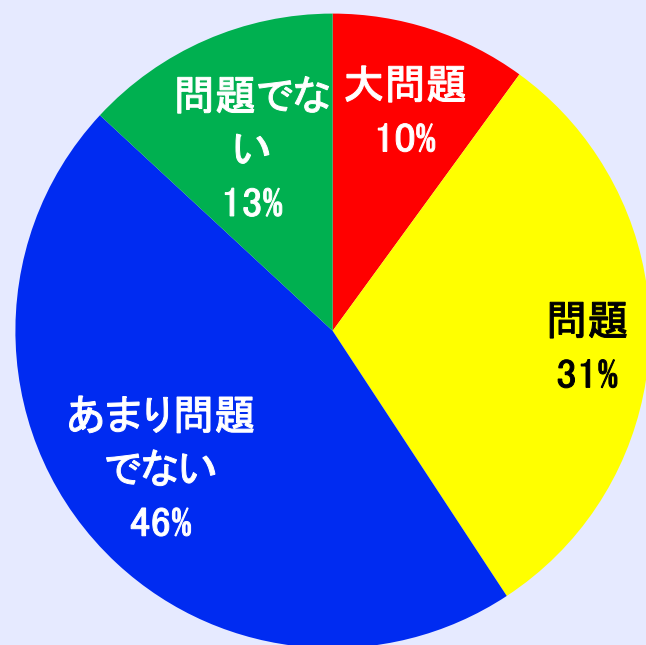
県全体割合 (%)

■ 大問題 ■ 問題 ■ あまり問題でない ■ 問題でない



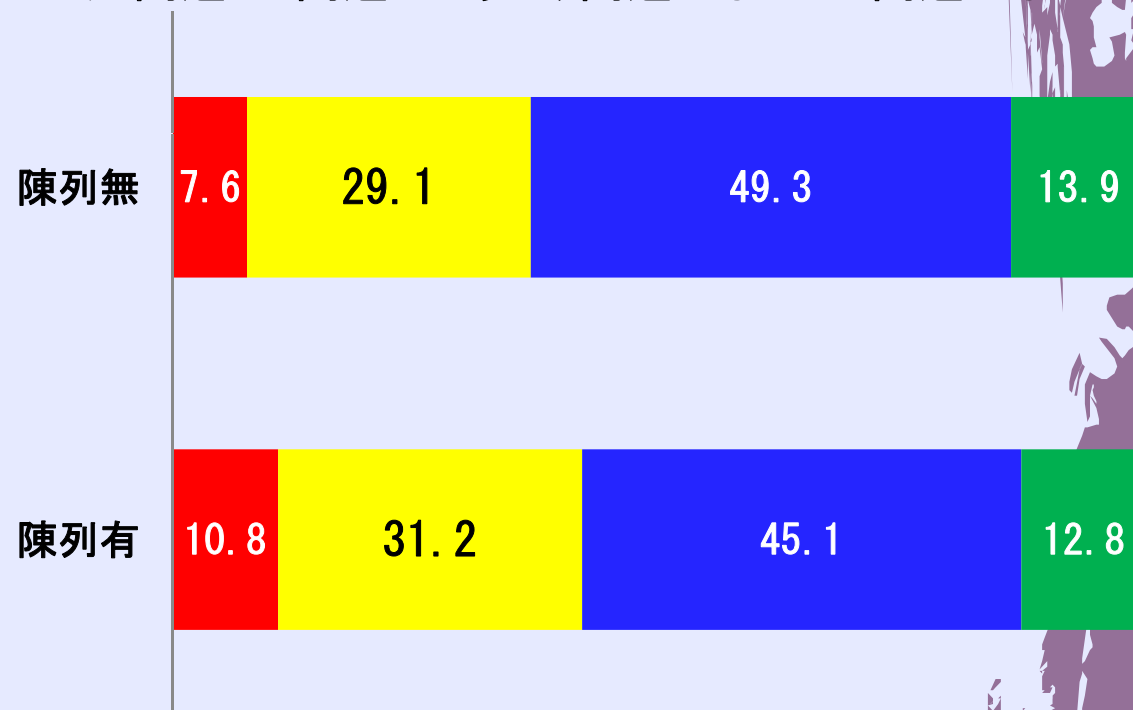
一般用医薬品陳列の有無別割合 (%)

- 一般用医薬品の販売価格が高いこと



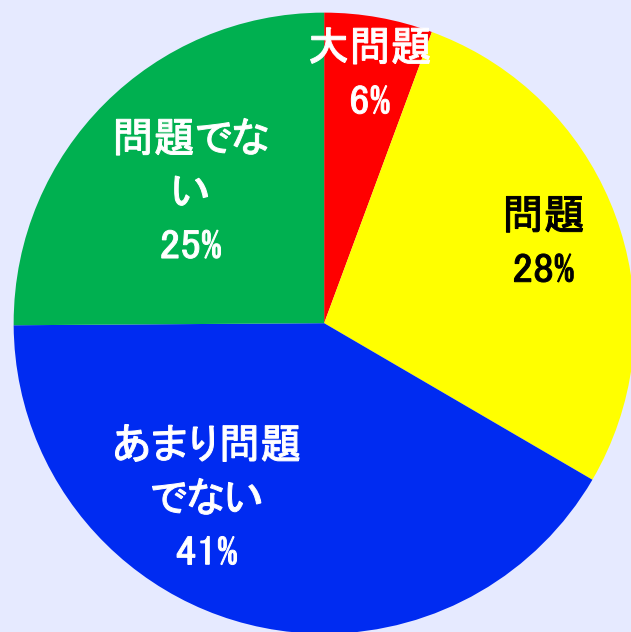
県全体割合 (%)

■ 大問題 ■ 問題 ■ あまり問題でない ■ 問題でない

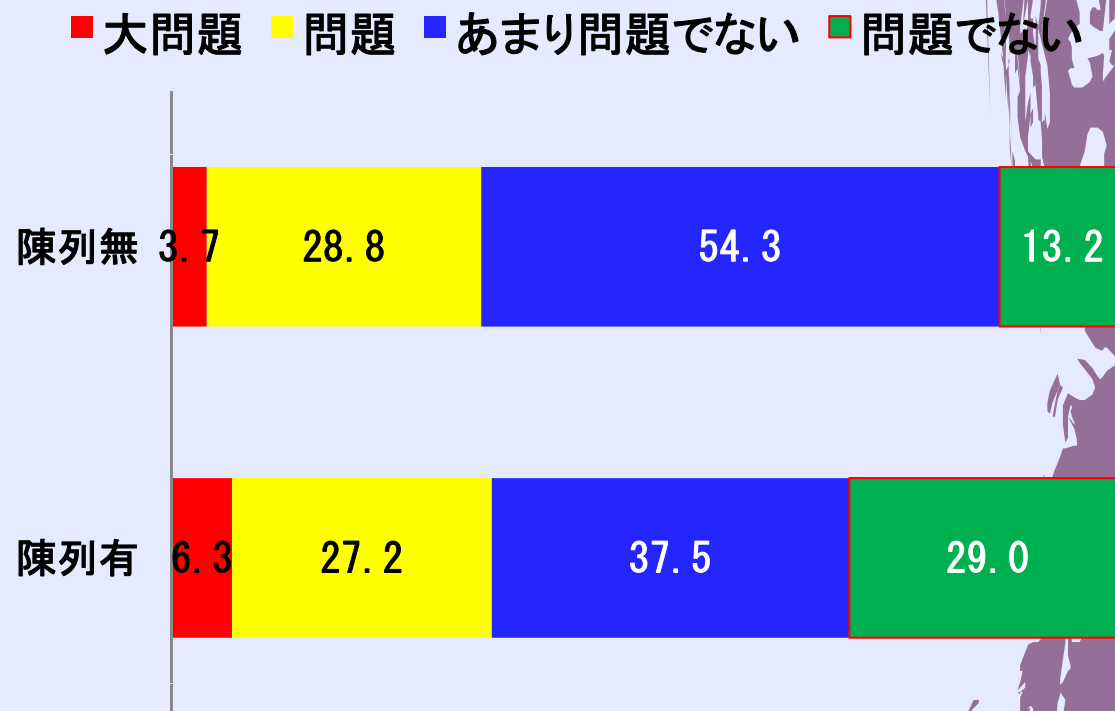


一般用医薬品陳列の有無別割合 (%)

- 地域住民に薬局において一般用医薬品が販売していることを知られていないこと



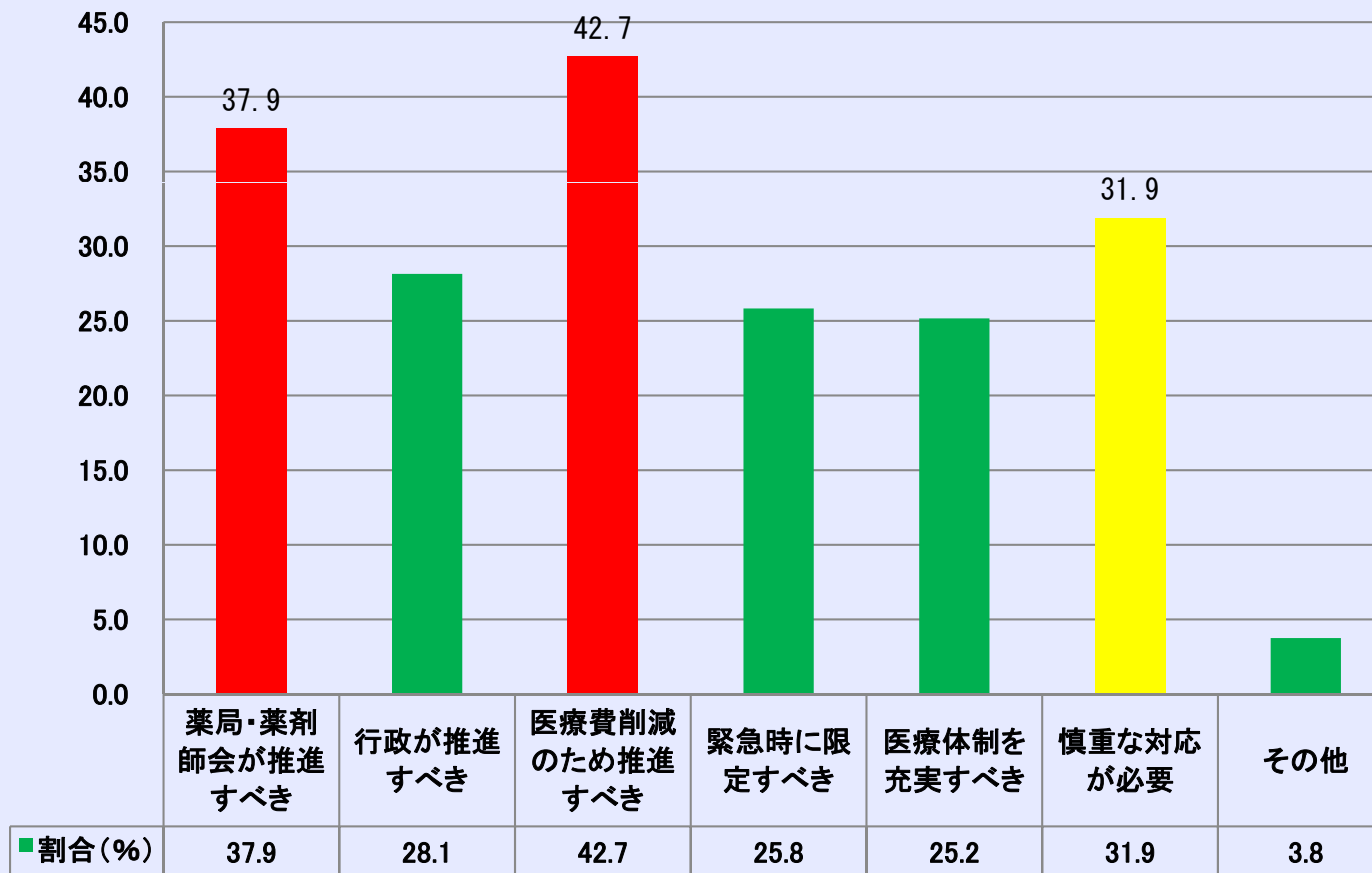
県全体割合 (%)



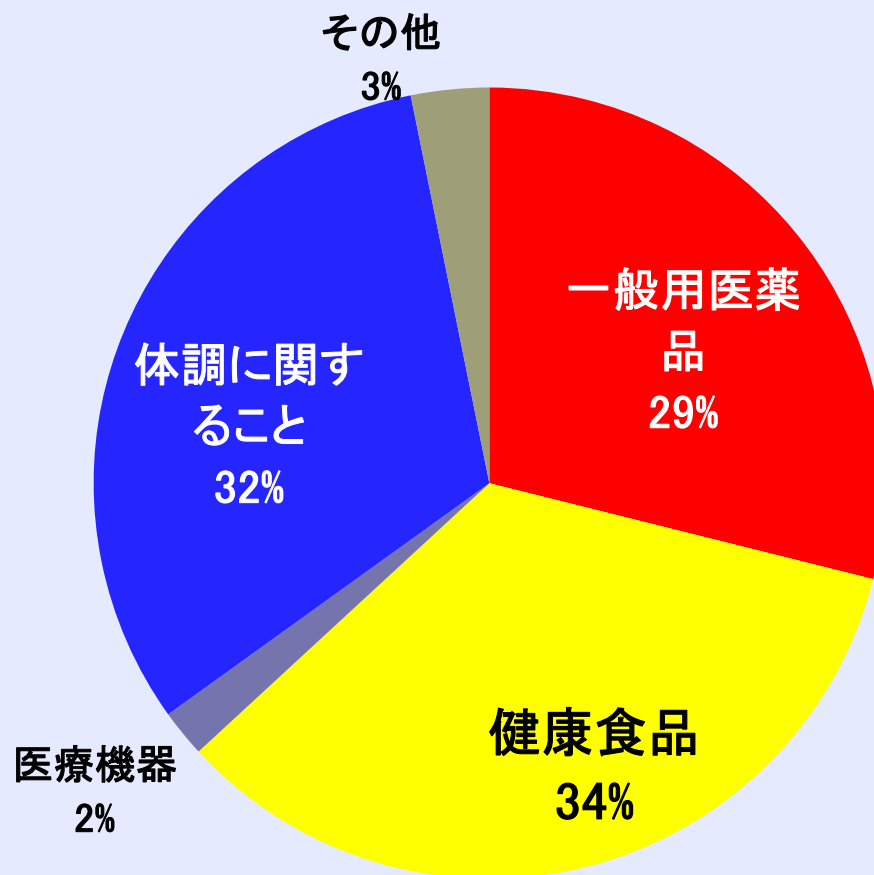
一般用医薬品陳列の有無別割合 (%)

(3)セルフメディケーションに対する調査

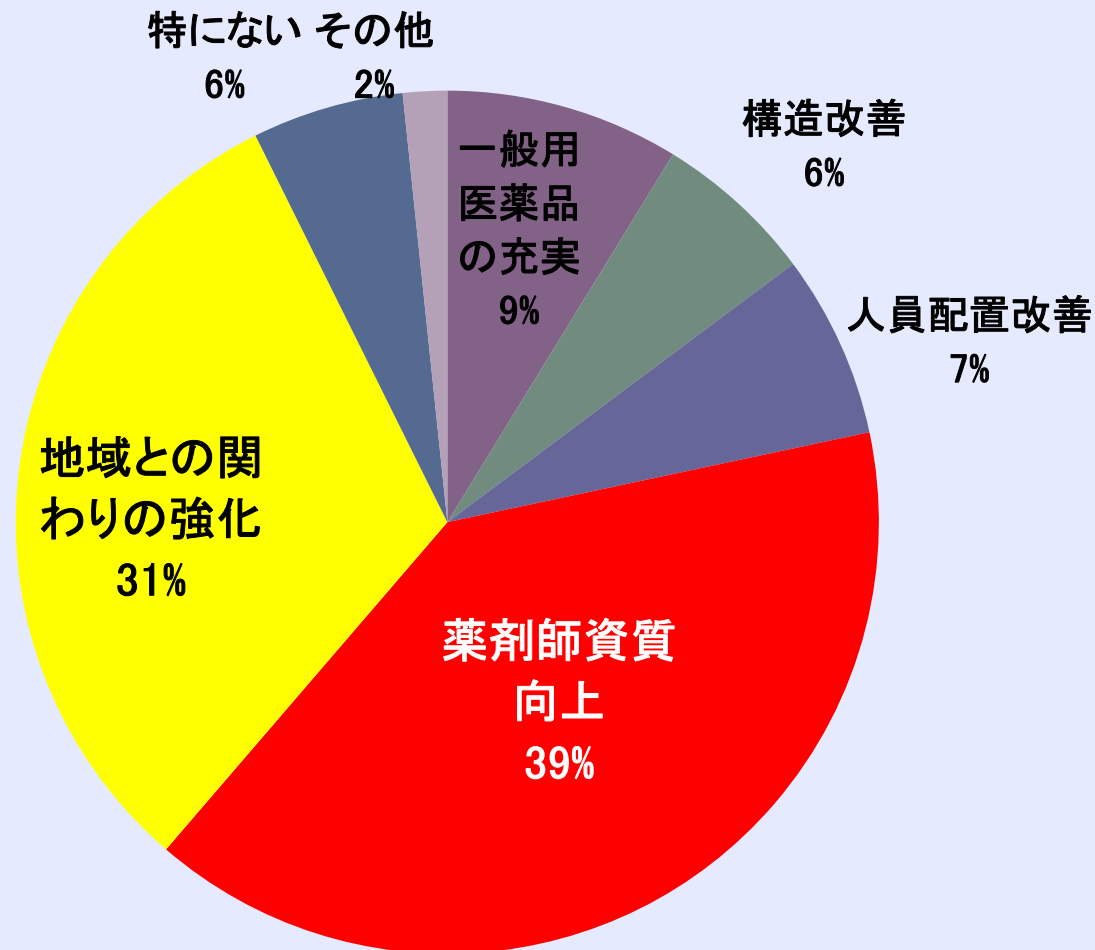
● セルフメディケーション推進に対する意識 (複数選択可能)



● セルフメディケーションに係る相談応需の内訳



● 薬局が地域住民のセルフメディケーションを支援するために最も必要な事項



5 まとめ

● 一般用医薬品の販売について

- ◆ 多くの薬局が調剤を専門で行うことを前提で開局しているため、一般用医薬品の販売を積極的に行っている薬局は多くない。

⇒ 人員・時間・陳列場所不足の要因

- ◆ 多くの薬局がセルフメディケーションの推進を必要と考えている。
- ◆ 薬局が地域住民から受けるセルフメディケーション支援に係る相談の約3割が一般用医薬品関連

⇒ 相談に応じ、適切な一般用医薬品を案内するためにも

一般用医薬品の販売は必要

● 薬局のセルフメディケーション支援機能向上に向けて

薬局側への支援

研修会の主催, 後援
一般用医薬品に係る知識習得
接客スキル習得
一般用薬品の販売推進
基準薬局の認定制度支援

薬剤師資質向上
薬局の機能強化

県民に対する啓発

薬局の機能の案内
薬局でセルフメディケーション支援
を受けるメリット等
地域の薬局の情報
薬局機能情報の活用等

地域住民と薬局
の関係の強化

薬局のセルフメディケーション支援機能の向上
(みやぎのかかりつけ薬局の実現へ)